

狙いは室町幕府再興にあり

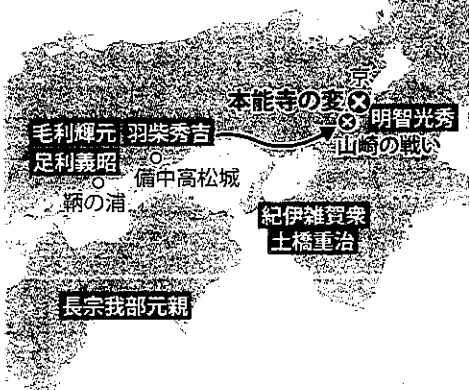
美濃加茂市民ミュージアムが所蔵する明智光秀の書状。本能寺の変の後に書かれ、軸装されていた—同ミュージアム提供(記事は26面)

本能寺後 光秀何を思う

毎日新聞

2017年(平成29年)9月12日(火)

「本能寺の変」発生時の諸将



岐阜の博物館所蔵

光秀直筆「密書」

本能寺の変で織田信長を討った重臣の明智光秀が、反信長勢力とともに室町幕府再興を目指していたことを示す手紙の原本が見つかったと、藤田達生・三重大学教授(中近世史)が発表した。変の直後、現在の和歌山市を拠点とする紀伊雑賀衆で反信長派のリーダー格の土豪、土橋重治に宛てた書状で、信長に追放された十五代将軍・足利義昭と光秀が通じているとの内容の密書とされている。(1面に写真)

本能寺の変 直後

藤田教授によると、書状は岐阜県的美濃加茂市民ミュージアムの所蔵。和歌山県内で伝えられ京都府の古書店に渡ったものを美濃加茂市の篤志家が入手して寄贈したという。鳥居和之・名古屋市長(左)文庫長らとの共同調査で、形状や紙質などから手紙の原本と断定し、筆致や署名、花押から光秀自筆の可能性が高いと結論づけた。本能寺の変に関する光秀自筆の書状は極めて珍しい。

書状は天正10(1582)年6月2日の本能寺の変から10日後の12日付で、返信とみられる。「上意(将軍)への奔走を命じられたことをお示しいただき、ありがとうございます。しかしながら(将軍の)ご入洛の件につきましては既に承知済みです。そのようにご理解され、ご奔走されるのが肝要です。」

発見された書状の現代語訳の一部

◆本文
仰せのように今まで音信がありませんでしたが、初信であることごの儀(用表現)、上意(将軍)への奔走を命じられたことをお示しいただき、ありがとうございます。しかしながら(将軍の)ご入洛の件につきましては既に承知済みです。そのようにご理解され、ご奔走されるのが肝要です。
一、雑賀衆が当方に味方されるとご命じになりました。相手が、相

承諾しています」とあった。京を追放された義昭は当時、中国地方を支配する毛利輝元の勢力下にある瀬戸の浦(広島県福山市)にいた。義昭が京に戻る際は協力することになっていると重治から示され、光秀自身も義昭と既に協力を約束していることを伝える内容という。書状の手書きの写しは東京大史料編纂所に残っていたが、原本は縦11・4センチ、横56・8センチで、細かな折り目がついていた。豊んで書状を入れる包み紙も一緒にあったことから、使者が極秘に運んだ密書とみられる。

光秀は京に上る前の信長と義昭を取り持ち当初は双方の家臣だったとされる。藤田教授は「義昭との関係を復活させた光秀が、まず信長を倒し反信長勢力に奉じられた義昭の帰洛を待つ幕府を再興させる政権構想を持っていたのでは」と話す。【松本宣良】

◆追伸
一、高野衆・根来衆・雑賀衆が相談され、和泉・河内(ともに大阪府)方面まで出陣されることほむこともなごです。因書については当家の家老とこちらが話し合い、後々まで互いに良好な関係が続くように、相談するべきこと。
なお、必ず(将軍の)ご入洛のことについては、ご奔走されるのが大切です。詳細は上意(将軍)からご命じになりますこととす。
委細につきましては(私からは)申し上げられませぬ。 訳・藤田教授